

認定NPO法人 北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

(振込先:郵便局 02790-5-51893 認定NPO法人北海道自由が丘学園)

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条15丁目5-11 TEL(011)858-1711 FAX(011)858-1333

URL <https://www.hokjioka.net> E-mail: codmoka@b216.blowth-net.co.jp

支援会員・寄金 3,000円 (年額)
*会員には、本通信を配布します。



INDEX

- P1: 巻頭言
- P2: ヒューマンイラスト/
運動、会費納入他
- p3:「自由が丘の理念と
実践から」講演レジュメ
- p4-5:NPO 総会資料
- p6: スクール/農業実習
- p7: ↓/初等部
- p8:父母会、カレンダー他
*「チラシ」

◆5月1～2日: ゴールデンウィーク特別行事小
学生・中学生合同でスクールお泊り企画を実施。
二日目に札幌市青少年科学館を見学しました。

「曲がり角の風景と古典のチカラ」

自由が丘月寒スクール・理事/生活・事務担当 尾田 めぐみ

年を重ねていくにつれ、いつか自分も歴史の一部となっていくことが、自然と実感されるようになってきました。子どもの頃は戦争の経験を実体験として語る大人が周りにいたものですが、タイムスパンからするとそれは今から阪神の震災を振り返るようなものだ気づいて愕然としたりします。ものごとのやりすたりも見てきて諸行無常、盛者必衰の理(ことわり)という言葉や、ああこういことなんだなあ、と腹に落ちる感じ。その感覚をもって思うのは、我々はいまいろんな意味で曲がり角にいるのだな、ということです。社会の中の学校の位置、国家のありよう、生命の意味、労働とは、お金とは、そして「本当のこと」とは何か。あらゆることが移り変わる世の中にあっても今の変わり方は質が違うというか、その先が見えない曲がり角にいるような。

その流れのなかで「将来のために」「子どもたちのために」何をすべきか、ということの中身も激変していきます。そろばんが、塾が、語学が、プログラミングが、と言われてはろうろうしてきたことが思い起こされます。

それでも、壊れやすい心と身体だけが人という生き物の持ち物であることに古来変わりはなく、古典に帰る価値のある所以なのでしょう。先ごろスクール生徒に教えてもらったユーチューバー(でもある)藤村シンさんという古代ギリシャ研究家に注目しています。シン先生は一世を風靡したまんが「聖闘士星矢」を入りに古代ギリシャ愛に目覚めたそうですが、アカデミックな活動のみならず月桂冠をかぶった講演や玄人はだしのイラストを描いたり、動画を含むあらゆる手段を使って愛を伝道しておられる様子がなんとも楽しそうでこちらも幸せを感じてしまいます。そして文学、まんが、ゲームなどの中に今も生き続ける古典の力をまざまざと感じます。

古代ギリシャ世界には統一国家が存在しなかったために、神話の統一がなされず地域ごとに好きな神々を信じていたとのこと、これもまたなんとなく痛快。

[注:筆者は縁あって経理事務を受持ち、時に音楽/文学の授業や生活担当。昨年度より理事として支え役の一人(編集子)]